

建築物の耐震改修の促進に関する法律第9条の規定に基づき公表する、要安全確認計画記載建築物(防災拠点建築物)の耐震診断結果です。

※個々の建物の構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価区分については、各建物の「耐震診断の方法の名称」ごとの「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」との対応を『附表 耐震診断の方法及び安全性に関する事項』に示しています。(なお、いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはありません。)
 ※附表の8から15-2,23,24の耐震診断の方法を用いた場合の I_s/I_{so} については、 I_{so} を算出する際に用いる $U=1.0$ 、 $E_s=0.6$ (8、9の耐震診断の方法では0.8)とした場合(Z, G, R_t が1の場合 $I_{so}=0.6$)の I_s/I_{so} を示しています。

【イ-2 病院群輪番制参加病院】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果		耐震改修等の予定		備考
							内容	実施時期	
1	岡崎南病院 本館	羽根東町1丁目1番地3	病院	12 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so} = 1.00$	$C_{Tu} \cdot S_D = 0.61$	耐震改修	令和2年3月完了	鉄筋コンクリート造部分
				23 一般財団法人日本建築防災協会による「既存壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める第1次診断法により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	$I_s/I_{so} = 3.31$		耐震改修	令和2年3月完了	壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造部分
2	岡崎南病院 山武棟	羽根東町1丁目1番地3	病院	12 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so} = 1.10$	$C_{Tu} \cdot S_D = 0.67$	耐震改修	令和元年3月完了	鉄筋コンクリート造部分
				23 一般財団法人日本建築防災協会による「既存壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める第1次診断法により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	$I_s/I_{so} = 1.83$		耐震改修	令和元年3月完了	壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造部分
				7 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断基準」(2011年版)	$I_s = 0.99$	$q = 1.20$	耐震改修	令和元年3月完了	鉄骨造部分
3	岡崎南病院 新館	羽根東町1丁目1番地3	病院	12 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so} = 1.01$	$C_{Tu} \cdot S_D = 0.63$	耐震改修	令和元年3月完了	鉄筋コンクリート造部分
				23 一般財団法人日本建築防災協会による「既存壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める第1次診断法により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	$I_s/I_{so} = 1.43$		耐震改修	令和元年3月完了	壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造部分